

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103946
法人名	(有)ベターライフ・U
事業所名	グループホーム四葉のクローバー
所在地	松山市石風呂町甲1014番1 （電話）089-952-4165
自己評価作成日	平成21年8月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・『健康・愛情・幸福・希望』の理念の下、全スタッフは利用者様・御家族・職員の『安全・安心・安らぎ』のある生活を目指し取り組んでいる。また、理念カードを常時携帯し、理念一つ一つの意味合いを確認・認識し日々の支援にあたっている。

・『その人らしさ』を見失わないように、一日も長く生き生きと過ごして頂けるように、一人ひとりの有する力・出来る事を見極め個別ケア・自立支援に取り組んでいる。毎日の体操・散歩など健康維持に努めている。

・同系列GHの畑で栽培された無農薬の新鮮な旬の野菜や果物を食べて頂き、季節感を感じて頂いている。

・職員は、外部研修会に積極的に参加し、質の向上に取り組んでいる。また、看護師を中心に勉強会を行い、異常の早期発見・早期対応を心がけ、報・連・相の必要性を認識し注意を払っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所では、何事に対しても、ありがとうという感謝の気持ちを忘れない、その思いを言葉にして伝えるように心がけておられる。職員は、毎月、ご家族に発送する便りに「利用者自身の言葉をご自身の手書きで添えるようにしよう」と提案し、全職員で取り組まれ、ご家族に喜ばれている。

●事業所では地震対策のために、棚に落下防止のストッパーを取り付けたり、筆筒の下に転倒防止用具を敷いたりされている。消火器も法的な数量の倍程度設置して、初期消火に備えられている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい の 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム四葉のクローバー

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 上西 光宣

評価完了日 平成21年 8月 10日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念『健康・愛情・幸福・希望』と基本方針を掲示した理念カードを全職員が常時携帯し、理解・共有しており、統一したサービスにつなげる様日々努力している。 定期的に月次ミーティング等で話し合っている。 (外部評価) 職員は、理念を共有すると共に、理念に添ったケアができるよう、理念を記した携帯カードをいつも身につけ確認されている。	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩や掃除の際、近隣の方々と気軽に挨拶を交わしている。地域の祭り等の行事に職員が参加したり、催し物に招待頂き利用者様が参加される事もある。公園を管理している方から公園内の花を頂いたり、年々交流の機会は多くなっている。小学生が下校時に、利用者様を見つけ手を振ってくれたりする。 (外部評価) 松山夏祭りには、職員が団地の連に加わり地域の方と一緒に踊ったり、地域の盆踊りには、利用者と共に参加されている。地域ボランティアの方達が、水軍太鼓・大正琴の演奏を事業所で披露してくださった。調査訪問時、地区公民館で行われている勉強会に職員が参加されており、救急救命・薬について勉強をされていた。管理者は、地域の方から介護相談を受け、施設の紹介等もされている。	さらに地域との関係性を深めるために、職員は「地域の清掃活動にも参加したい」と話しておられた。管理者は、事業所主催で「認知症を知っていただくための研修会」等を開催したいと考えておられた。
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域に対して認知症の学習会や相談会を予定しているが、まだ実施には至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2 ヶ月毎の会議が定着し、利用者様の日々の状況や取り組み等報告している。参加された御家族からは、活発な御意見や希望等頂いている。会議内容は議事録を配布し、参加していない職員も会議での意見等を把握し、サービス向上に努めている。職員が参加することで、地域民生委員の方など顔見知りの関係になりつつある。	
			(外部評価) 運営推進会議では、地域行事の情報を得たり、事業所の取り組みに対する意見を伺ったりされている。今年度は、利用者の様子をさらに知っていただくことに努められ、利用者と一緒に「そうめん流し」「運動会」等の事業所の行事に参加していただく機会を多くして感想をいただいた。	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 代表者は密に連絡を取り協力関係を築いている。生活保護担当職員の方には、利用者様の生活ぶりなどを細かく伝え、連携を深めるようにしている。	
			(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議以外にも「餅つき」等の事業所の行事にも参加していただいている。	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束をしないケアについて月次ミーティングなどで理解を深め、職員全員が共通認識を持ちケアに取り組んでいる。外に出ていかれる気配を見落とさない様、所在を確認したり職員間で声を掛け合うようにしている。玄関は常に開放しているが、利用者様の状況に応じ、早朝や夜間など見守りが手薄になる時間帯は施錠する時もある。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関は開放されており、自由に出入りできるようになっていた。管理者は、言葉による拘束がないようにと職員に話されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月次ミーティング等で資料が配布され勉強会を行い、防止に努めている。入浴時には、さりげなく身体をチェックし、あざ等無いか確認している。問題がある場合は話し合っている。また、職員間で言葉使いなど疑問があれば話し合い注意を払っている。他施設で問題となる事例があった場合は、朝礼で報告し注意を促している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 契約時など、必要に応じ代表者から説明されている。職員は月次ミーティング等で勉強会を行っているが、活用できる程十分な理解は出来ていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 代表者と職員1名が同席し、時間をかけゆっくり丁寧に説明を行い理解・納得頂いている。特に重度化や生活の上で起こりうるリスクなどについて詳しく説明している。改定に関しては、御家族に前もって通達し御理解頂くようにしている。疑問や不安等ある場合は、その都度説明を行い御理解頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時には声をかけ、気軽に意見を出して頂ける様な関係作りに努めている。御家族から苦情・要望があった場合は、個別記録に詳細を記載し、情報を共有し話し合い改善に取り組んでいる。事業所以外の外部に、意見や苦情を表せる場所があることは、契約書に明記し御説明している。 (外部評価) 利用者は、ご自分の意見をしっかり言える方も多くあり、職員は、日々の生活の中で直接聞き取るようにされている。ご家族には運営推進会議の後に一言でもご意見を出していただくように事業所からお願いをされており、「お世話になって感謝している」という感謝の言葉をよくいただくようである。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者やリーダーに常に気軽に意見・相談できる環境にある。月に1回、月次ミーティングを行っており、その場で意見交換を行い、反映に努めている。 (外部評価) 事業所では、何事に対しても、ありがとうという感謝の気持ちを忘れない、その思いを言葉にして伝えるように心がけておられる。職員は、毎月、ご家族に発送する便りに「利用者自身の言葉をご自身の手書きで添えるようにしよう」と提案し、全職員で取り組まれ、ご家族に喜ばれている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、毎朝現場に来て朝礼を行い、利用者様の事と職員の状況把握に努めている。また、職員の努力や成果の把握に努めている。希望休は可能な限り調整しリフレッシュにつなげている。慰安旅行や年に数回食事会もあり、親睦を深めると共にやりがいにつながっている。体調不良や急用時にも理解があり、即対応してくれる。	
13		○ 職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内を回覧され、興味のある研修に積極的に参加できるようになっている。代表者から勧められる事も多い。月次ミーティングで研修報告や資料配布を行い、情報を共有し職員全体のスキルアップにつなげている。GH情報誌を定期購入し、勉強会に活用している。資格取得に理解があり協力的である。	
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域のGH連絡会にも、代表者だけでなく職員も参加し交流を深め、質の向上を目指している。相互訪問を通して、事業所外の方の意見を聞き、ケアに活かすようにしている。研修に参加した際、同業者の方々と話をしてネットワーク作りに努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、御本人・御家族と面談を行い、御本人の思い等情報収集し生活状況など全体像把握に努めている。面談には現場職員が同席し、入居時に戸惑いが最小限になるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に御家族の要望や困っていること等伺い、可能な限り対応するよう心がけている。出来ない事は、曖昧にせず出来ない旨を伝え御理解頂く様にしている。御入居後も、常に不安や要望に耳を傾け信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメント時、御本人や御家族の思いや生活状況を確認し、必要とする支援を見極めるようにしている。入居が困難な場合は、必要と思われる支援やサービスが受けられるよう情報提供したり、他施設と連絡を取り紹介している。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で、御本人の思い(喜怒哀楽)を見逃さないようにしている。出来る事を出来る範囲でして頂き、『一緒に』の思いを心がけている。 ” 人生の大先輩である ” という共通認識を持ち、生活の知恵など利用者様から教えて頂く機会が多く持てるよう心がけている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話連絡や面会時・月次の郵便物に同封する手紙等に、利用者様の生活状況・精神状況を詳細に報告・連絡・相談し、情報交換に努めている。その中で、共に支えあう関係作りに努めている。疎遠な御家族とは、信頼関係の構築が難しい。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前交流の把握に努め、入居後も継続した交流が出来るように御家族の協力の下働きかけている。面会時は、気兼ねなくゆっくり過ごして頂くよう努めている。馴染みの方から『入居後笑顔が増えてよかった』などの言葉を頂戴する機会も多い。地域のサロンからお誘い頂くが、近隣の入居者様が少ない為、参加する機会が少ない。 (外部評価) 調査訪問時、利用者を尋ねて来られたお友達と居室でお話されている様子が伺えた。帰られる際に「また来て」「また来るね」等の会話も聞かれ、職員も「また来てくださいね」と言葉を添えられていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 水分補給や食事・おやつ・散歩などの際、共通の話題提供に心がけ、利用者様同士が関わり合えるよう支援している。また、利用者様同士がリビングで話をされる機会も増えた。それぞれが助け合うような場面もある。トラブルが発生した際は職員が間に入り、不愉快な思いが残らないように、また孤立しないように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時は、環境の変化に伴うダメージを最小限にする為、生活状況や支援内容・注意点などの細かい情報提供を行っている。代表者は、退居後も継続した関係を心がけており、適宜相談に乗ったり面会に訪問している。職員も面会に何うようにしている。退居後もしばらくの間は月末はがきを記載し送付している。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) はっきり希望される方は少ないので、日々の関わりの中で声をかけ、些細な変化や表情・言動などからそれぞれの思いが把握できる様気をつけている。困難な場合は、御家族に相談している。時に、本人本位でないケースもあると考える。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者が「したい事・いやな事」を聞き取っておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントに時間をかけ、御家族から生活歴や暮らしについて伺い、その方らしい生活が継続できるように努めている。御家族以外のご近所や友人から生活情報を頂く事までは出来ていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の生活リズムを理解すると共に、センター方式の出来る事・出来ない事・わかる事・わからない事シートを活用している。その中で有する力を把握し、必要な支援について共通認識が持てるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 御本人・御家族から意見や要望を伺い、プランに反映させている。また、月次ミーティング時に、職員全員でカンファレンスを行い、利用者様本位のプラン作成に努めている。通常3ヶ月に1回見直しているが、期間内に変化があった場合は、その都度意見交換を行い修正している。	
			(外部評価) 利用者・ご家族の希望や思いを大切に、介護計画を立てておられる。ご家族からの希望でご本人のやりがいや役割、生きがいを見つけていただくために食事作りを計画に採り入れた事例もある。	
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の中で、行動・言動や気付きを、個別に細かく記録に残している。出勤時、記録物に目を通し情報を共有することは習慣になっている。また、注意点などあれば申し送り時に報告がある。その記録を基に、問題点等あれば話し合ったり、ケアプランの見直しや評価に活用している。	
			(自己評価) 一人一人の状況把握に努め、御本人・御家族の要望に応じた対応をできるよう努めている。御本人・御家族の状況に応じ、病院通院など医療行為も柔軟に対応している。	
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センター・社協・市役所等の職員が参加される事で、情報の交換や関係機関との協力関係が築けつつある。消防署と連絡を取り合い、年2回防災訓練を実施している。万が一、行方不明者が発生した際の捜索相談など、地域警察署・消防署等とも連携している。ボランティアでフラワーセラピーやアロマセラピーを楽しまれている。	
			(自己評価) 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センター・社協・市役所等の職員が参加される事で、情報の交換や関係機関との協力関係が築けつつある。消防署と連絡を取り合い、年2回防災訓練を実施している。万が一、行方不明者が発生した際の捜索相談など、地域警察署・消防署等とも連携している。ボランティアでフラワーセラピーやアロマセラピーを楽しまれている。	
			(自己評価) 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に、御本人・御家族には入居前のかかりつけ医 への継続診療が可能であることを説明するが、皆さん 『ここで診て頂くのが安心』と言われ、入居後はホー ムかかりつけ医に変更されている。専門外来に関し ては引き続き受診され、その際普段の生活ぶりなどの情 報提供に努めている。かかりつけ医は24時間体制で 対応頂いている。	
			(外部評価) 1週間に1回かかりつけ医が往診に来てくださっており、いつでも相談できるようになっている。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ユニット内に看護師があり、気軽に相談・指導が受け られる環境にある。夜間でも気軽に連絡できる関係が 築けている。些細な変化も見逃さないよう注意し、看 護師に相談した場合は迅速に対応できている。状況に 応じ、かかりつけ医にすぐに報告・連絡・相談できて いる。かかりつけ医の看護師にも相談しやすい関係が 出来ている。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 戸惑い無く安心して治療が受けられるように、生活状 況など情報提供書を病院関係者に手渡している。入院 中は、主に代表者が病院関係者との情報交換に努め、 その都度職員に報告がある。職員も見舞いに行き回復 状況の把握に努めている。御家族様とも連絡を取り、 早期退院の支援に結び付けている。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時、重度化の方針について説明し御理解頂いてい る。また、急変時の意思確認書に記入頂き、対応の統 一を図っている。入居後も利用者様の状況変化に応 じ、意思の確認を行うようにしている。早い段階か ら、ホームで出来る対応などをかかりつけ医・御家族 と話し合い、十分に御理解頂いた上で、適切な施設や 医療機関を御紹介している。	
			(外部評価) 事業所では、入居時に看取りの指針を示し、利用者ご 家族に事業者が支援できることを話されている。「こ こに最期までいたい」と希望される利用者もあり、事 業所の指針に基づき、「職員で出来る限りの支援をし ていこう」と話し合っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルを作成している。心肺蘇生訓練用的人形を購入し、看護師が中心となり全職員で蘇生法の勉強会を行っている。また、日赤主催の救急研修にも参加している。月次ミーティングでは、様々なケースを設定し応急手当や初期対応など勉強会を行い、その時に慌てず対応できるように取り組んでいる。	
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時マニュアルを作成している。年2回消防署の指導の下、様々な時間帯や火元を想定した防災訓練を実施し、利用者様にも参加頂いている。避難経路や消火器の設置場所・地域の避難場所は定期的に確認し把握している。災害時の備品は十分完備している。地域住民を含めた訓練の必要性は理解しているが実施出来ない。 (外部評価) 事業所では地震対策のために、棚に落下防止のストッパーを取り付けたり、筆筒の下に転倒防止用具を敷いたりされている。消火器も法的な数量の倍程度設置して、初期消火に備えられている。	代表者は、今後、夜間の災害に備え、一人体制での避難訓練も計画したいと話しておられた。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○ 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 『言葉使いに気をつける』をユニットの年間目標としており、言葉掛けや対応など月次ミーティングで話し合っている。個人の人格を尊重し敬意を払い、接し方や言葉遣いなどぞんざいな対応にならないよう努めている。トイレなどの対応は自尊心を傷つけないよう、さりげない誘導を心掛けている。外部への個人情報提供に関しては、守秘義務を理解して対応している。 (外部評価) 調査訪問時、職員は利用者に「もう少し足を上げてみますか」等、やさしく声かけをしながら手をつなぎ、一緒に体操をされていた。事務室で利用者の名前を表示する時は、プライバシーに配慮して、部屋番号やイニシャルで示すようにされている。	
37		○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段から、思いや希望を表出しやすい関係作りに努めており、出来る限り希望に沿えるよう支援している。日常生活において、飲み物・おやつなど些細な事でも自己決定して頂く場面が多くなるようにしている。意思表示が困難な場合は、選択肢を提案し自己決定につながるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 健康面を考慮し、午前中は体操・散歩・レクリエーションなど職員のペースで生活して頂いている。その中で希望に出来る限り沿えるよう、無理強いせず御本人の気持ちを尊重している。午後は思い思いに生活して頂いている。日曜日はゆっくり起きられ、日中ものんびり過ごして頂くよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問美容師に、好みの髪型を注文されたり毛染めをされている。洋服は出来る限り自分で選んで頂くように支援している。整容されたり化粧をされたりと、変化を見逃さないように声掛けし、化粧の楽しさや心地よい思いを味わって頂くようにしている。整容の乱れや汚れなどある場合は、誇りを傷つけないようさりげなく支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食材を取り入れるよう心掛け、メニューも可能な限り希望に沿うようにしている。利用者様の好みを把握し、嫌いな物は別メニューで対応している。野菜の下処理や食器拭きなど出来る事をお手伝い頂いている。食事前後のテーブル拭きや下膳は、利用者様全員の習慣となっている。職員も同じテーブルで同じ物を食べ、食後は会話を楽しむようにしている。 (外部評価) 事業所で食事作りをされており週3回は管理栄養士の指導のもと食事作りされており、週4回は利用者の希望をうかがいながら季節感のあるメニューを決め手作りされている。利用者・職員が一緒に一つのテーブルを囲み、「この秋茄子は畑で取れたものよ」「採れたては美味しいね」「次は芋ほりね」等、系列グループホームでの収穫時のお話等を楽しくしながら食事をされていた。食後、利用者はそれぞれに下膳をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 週3日は管理栄養士がカロリー計算した宅配食材を利用し、週4日はそのメニュー表を参考に、希望を取り入れたメニューにしている。食事摂取量は、個別記録に記載し把握している。体重の増減や血液検査結果に注意し、看護師や御本人・御家族に相談の上、食事量を調整したり体調に応じた対応を行っている。定期的に水分補給の時間を設け、十分な水分量は確保できている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 研修や月次ミーティングで口腔ケアの必要性を理解しており、毎食後口腔ケアの声掛けを行い習慣となっている方もおられる。介助を要する方は、洗面所にお連れし状況に応じて声掛け・見守り・手伝いを行い、口腔内の状態把握に努めている。週1回義歯洗浄剤を使用している。必要に応じ歯科医の往診を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄状態の把握に努めている。尿・便意のない方は、時間を見計らってさりげなくトイレ誘導を行い、トイレで自然排泄できるよう支援している。また、オムツ使用量を減らす事にもつながっている。失敗した場合は、自尊心を傷つけないように、周囲に気付かれないよう支援している。	
			(外部評価) 失禁等の対処のために紙パンツやパットが使われている方もおられるが、職員は排泄の記録に沿って、声かけをされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品は毎日摂取して頂き、食物繊維を多く含む食材を使用するよう心がけており、水分もしっかり摂って頂いている。腸の動きを良くする為に、体操や散歩など適度な運動をして頂いている。便秘気味の方は、食後トイレに座る習慣をつけ、自然排便があるよう支援している。自然排便が困難な場合は、御家族に相談の上かかりつけ医に下剤処方を依頼している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯はこちらで決めているが、その中で一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しんで頂くよう取り組んでいる。個々の身体機能を把握し、出来ない事はお手伝いし安全面においても配慮している。入浴を拒否される方は、職員間で声を掛け合い、気持ちよく入浴して頂けるよう対応に工夫している。	
			(外部評価) 利用者は入浴がお好きな方が多く、ゆっくりと入浴していただくために、職員の多い時間帯に入浴することを勧めておられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も自由に居室に出入りされ、休息をとっておられる。自己主張が出来ない方や自分で移動が困難な方は、御本人の希望を確認して休息をとって頂いている。不眠時は原因をさぐり、気持ちよく眠りにつけるよう支援している。不眠が継続する方は、御家族に相談の上かかりつけ医に処方依頼している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬の用法・用量の把握に努め、体調の変化や副作用などに注意している。服薬時に日付・名前・何食前後薬かを声に出して確認し誤薬などの事故防止に努めている。一人ずつ配薬し飲み忘れがないか確認させて頂いている。内服薬の変更があった場合は、日報や個別記録に記載し情報共有に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お願いできそうな事を探し、掃除・洗濯物干しやたたみ・食器拭きなどして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。梅干漬けやらっきょ漬けの時は皆さんにお手伝い頂き、経験と知恵を発揮して頂いている。演歌CDを聴いて一緒に歌われたり、カラオケを楽しまれたり、編み物を熱心にされている。まだまだ楽しみ事を増やせるよう対応して行きたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日ほぼ全員の方は散歩に出られており、季節感を感じて頂き気分転換につながっている。最低月1回は希望を取り入れた外出・外食に出かけ楽しんで頂けるよう努めている。御家族の協力を得て、外食や墓参り・ドライブに出掛ける方も居られる。買物等希望される方は職員同行で対応しているが、一人ひとりの希望に沿った外出は十分に出来ていない。 (外部評価) 利用者は、いちご狩りやさつき展・夜市・釣堀・キックボクシング等を楽しみに、職員と一緒に外かけておられる。今月はぶどう狩りに出かける予定となっていた。又、近所の店に食材や電池・菓子・お部屋の仏壇に供えるしきび等を買いに外かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時に御本人・御家族の意向を確認している。2人の方が現金管理されており、外出時などに買物を楽しまれ好みの物を購入されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持している方もおられ、自由に連絡を取っておられる。電話希望の方は事務所内の電話を使用頂いている。職員が御家族に連絡する際は、電話を代わり、話をして頂くよう心掛けている。手紙のやり取りをする方は居られないが、毎月月末に御家族に近況報告する手紙に、コメントを書き添えて頂くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先の鉢植えは四季折々の花が咲き、リビングからも楽しまれている。玄関には、季節の花々や季節を感じる置物を飾り、季節の変化を見て楽しんで頂くように努めている。リビングテーブルには、散歩の際、道端に咲いていた草花や庭先の花を活けている。温度・湿度調節はもちろんのこと、カーテンによる採光調節も小まめに行い、換気にも注意を払っている。テレビや音楽の音量等も配慮している。 (外部評価) 利用者は、ソファに腰掛けてテレビを見たり、テーブルを囲んでお話をされる等、思い思いに過ごされている。テレビに日差しが反射するのを防ぐために、カーテンをそっと引く職員の様子が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビ前にソファがあり、テレビを見たり新聞を読んだり思い思いにくつろがれている。テーブル席で外を眺めたり、会話や音楽を楽しむ方も居られる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 限られたスペースの中でベッドやタンスの位置を工夫したり、ボードに外出時の写真や御家族の写真を貼り、居心地の良い空間作りに努めている。フラワーセラービーで自分が作成した飾り物や植物など置いておられる。仏壇を置いている方も居られる。タンスや収納棚には地震対策が施されている。入居時に御家族が新しい物を準備してこられ、戸惑う利用者様も居られる。 (外部評価) 居室の入り口には、それぞれにお気に入りの暖簾が掛けられており、ご自分の部屋を間違わないように工夫されている。フラワーセラービー時にご自分で作った花かごを飾っておられたり、お孫さんやお友達からもらった折り紙で折った、鶴やかえるを飾っておられる方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室前に表札を揚げ、それぞれ違う模様の暖簾を下げて、自分の居室がわかり易いようにしている。トイレも見えやすい位置に表示している。利用者様の変化や状況に応じ、混乱を招かないように職員で話し合い対応している。玄関やトイレ・廊下・浴室には手摺りが設置され、自立支援につなげている。歩行される所には物を置かないようにしている。	